



9時15分、ヒヨドリの20羽ほどの群が南西を指して飛んで行くのを見ました。秋になると集団を作って山から平地へ移動していきます。このような鳥を漂鳥といいます。国内では広く定着していますが、かつては冬鳥であったことを思い出すかのように秋になると集団で移動する姿が見られます。



ユリカモメ

全長40㍍。冬鳥のユリカモメが南を指して飛んで行きました。主に海岸や大きな川などで見られる鳥です。愛知池では冬を越さないようです。冬を迎える頃、見るこ



とができます。



アキアカネおす

初夏に生まれ、夏は暑さを避けて高い山で過ごし、産卵のため平地に降りてきます。主に田んぼで卵を産みますが、昔と比べて農業が様変わりして数が激減しています。



ハナミズキ

北米原産。1912年米国に桜を贈ったお返しに日本に来ました。いわば平和の使者である木といえると思います。



トラツリアブ

体長 10 ㍍。釣り竿のように口吻が伸びているアブの一種です。同じ仲間、春先に現れるピロードツリアブに比べると短いです。秋に現れ、花で蜜を吸う姿を見かけます。愛知県以西で確認されており、バッタの卵鞘に寄生し、幼虫が卵を食べて成長します。バッタはセグロイナゴといわれています。セグロイナゴは数が少なくなっているため、広い草地が維持されている愛知池は貴重な生息地です。



チリイソウロウグモ卵のう

直径 2 ㍍。卵の入った袋が吊り下げられています。雌は 10 ㍍くらいで他の蜘蛛の網に居候して宿主の取りこぼしを食べていますが小型の宿主を食べることもあります





セグロイナゴ

体長 30 ㎜。胸部背面が黒い。背黒バッタともいいます。昔は普通種でしたが、草原が減るとともに減少しています。



コカマキリ 小型のカマキリです。見たことはありませんが、まれに緑色のものがあるようです。



カマキリ卵のう

チョウセンカマキリともいい、オオカマキリとは大きさで比べるのは難しく、前脚の基部を見た時、濃い橙色であればカマキリです。



ササキリ

体長 15 ㎜。名前の通りササや竹が生えている所を好み、シリシリシリシリ…と目立たない声で鳴きます。他のササキリに比べずんぐりしています



ノコンギク

ヨメナに似た野菊の仲間。地下茎を伸ばして広がります。ヨメナの葉はほぼ無毛ですがノコンギクには毛があります。

植物 アメリカセンダングサ、イヌタデ、ノコンギク、ツユクサ、ヒメジソ、ヒメジョン、アキノノゲシ、メドハギ、イヌホオズキ、タカサブロウ、クワクサ、ベニバナボロギク花雷、ヒヨドリバナ、アオツツラフジと実、マメアサガオ、ホシアサガオ、カナムグラと実、クズ、ススキ、トダシバ、ノガリヤス、イヌノハナヒゲ、メリケンカルカヤ、オギ、チジミザサ、トダシバ、ヌカキビ、スゲ類、実(イシミカワ、イタドリ、カラスウリ、ヤマノイモ、オニドコロ、ミツバアケビ、スズメウリ、ノイバラ、ヌルデ、ヤマハゼ、カクレミノ、ハギ、アカメガシワ、イボタ、アラカシ、ミヤマガマズミ、ムラサキシキブ、マメガキ、イヌザンショウ、イソノキ、スイカズラ、テイカカズラ)、**昆虫・クモ等** キタキチョウ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ、ナミアゲハ幼虫、ベニスジヒメシヤクの仲間、ヒメエグリバ、コブノメイガ、シロオビノメイガ、キイロスズメ幼虫、ヨモギエダシヤク幼虫、マダラバッタ、ショウリョウバッタモドキ、コバネイナゴ、ツチイナゴと幼虫、セグロイナゴ、ホシササキリ、クビキリギス、ササキリ、サトクダマキモドキ、虫の声(アオマツムシ、オカメコオロギ、カネタタキ)、オオカマキリ、コカマキリ、チョウセンカマキリ卵のう、アミガサハゴロモ外来種と産卵痕、クヌギカメムシ死体、ツマグロオオヨコバイ、アオバハゴロモ、マユタテアカネ、アキアカネ雄8、ナナホシテントウ死体、ヨモギハムシ、クロウリハムシ、オオスズメバチ、キゴシハナアブ、トラツリアブ、ヒサマツムシヒキ、アリ地獄、クモ類(ジョロウグモ雌雄、ナガコガネグモ、アシナガグモ、コガネグモダマシ、ササグモ、ワキグロサツマノミダマシ、シロカネイソウロウグモ、フジイコモリグモ、ハリゲコモリグモ類、ネコハグモ、チリイソウロウグモ卵のう)、**鳥、その他** ハシブトガラス、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ群、カワウ、ユリカモメ1、ヘビ2、ウスカワマイマイ、イセノナミマイマイ、コハクオナジマイマイ、虫こぶ(イソノナガタマフシ)

次回11月10日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円